SAMMU知新 池田（いけだ） 久和（ひさかず） 議員

若者の薬物乱用防止に関する対策

問 私は地域の奉仕団体に所属し、地域のタカラモノである青少年の育成事業として、各中学校で薬物乱用防止教室を開催しており、今年も事前に薬物乱用防止教育講師認定講座を受講しました。その際、最近では、若者層にはさまざまな危険薬物が蔓延しており、指定薬物エトミデート（通称：ゾンビたばこ）が大麻を含め増加傾向にあることを知りました。

そこで、若者たちが匿名で気軽に相談できるような、SNSを活用した窓口等の支援策はあるのか伺います。

答 保健福祉部長　県では、薬物乱用対策推進本部を設置し、薬物依存症等に関する相談窓口「千葉県こころセンター」を開設しています。

また、LINEアプリ「千葉県いのち支えるSNS相談」により、薬物乱用に関する相談も含め、専門のカウンセラーが対応しています。

本市としても、薬物乱用防止や相談窓口の周知に努めていきます。

答 教育部長　市教育委員会では、市内の児童生徒に対して、相談窓口が記載された「安心ホッとカード」を配布しています。

また、中学生を対象に、SNSの相談アプリを導入運用しています。

今後は、児童生徒に貸与している1人1台端末や、保護者と学校との連絡用アプリ「さくら連絡網」を活用して、相談窓口を周知する予定です。

外国人受入れおよび住民への対応

問 広報さんむに毎号掲載されている各月の人口異動のうち、転出・死亡以外の「その他」の減少理由に該当する方が、毎月2桁の人数となっていますが、その詳細と減少には外国人も含まれているのか伺います。

答 市民部長　当該表中の減少の理由「その他」の欄では、市が実態調査を行い、職権により住民票を消除した人数と、出入国在留管理庁から在留資格取消しの通知を受けて職権により住民票を消除した外国籍の人数の合計を記載しています。

SAMMU知新 玉置（たまおき） 美津恵（みつえ） 議員

公共交通について

問 市内の基幹バスは、主に大通りを走っているため、離れた住宅地に住む高齢者の方にとっては、利用しづらいものとなっています。現在のルート設定は、十分にその機能が果たされているのか、市の見解を伺います。

答 総合政策部長　市内の主要な拠点間を連絡し、通勤通学、買い物、病院等の日常生活行動だけでなく、観光など多様な目的での移動を担っています。

経由地である市内鉄道の各駅と地域交通等を連絡することで、公共交通ネットワークとしての重要な役割を担っています。

問 基幹バスは、運転免許証を返納した高齢者にとっての移動手段になると考えます。利用者の声をどのように収集し、反映させているのか伺います。

答 総合政策部長　令和3年度には基幹バスの乗降調査を実施し、左表のような結果となっています。

また、各公共交通利用者の実態把握のため、①基幹バス利用者②乗合タクシー利用者③路線高速バス利用者④成東駅利用者へそれぞれアンケート調査を実施しています。これらの意見を可能な限り実現できるよう検討し、地域公共交通活性化協議会で十分協議いただいたうえで、現在の地域公共交通計画を策定しています。

順位	バス停	乗降数
1	成東駅	8,481件
2	さんバス姫島	7,251件
3	さんむ医療センター	4,460件
4	日向駅	3,891件
5	松尾駅	3,658件

乗降数の多いバス停
（調査時の全体乗降数 77,455件）

問 乗合タクシー（あいのりくん）は、出発地から目的地までをドアツードアで移動ができ、高齢者には大変喜ばれています。一方で、予約が取りづらいこともあり、通院や買い物などの生活に直結する移動に利用される方は、不便を感じています。ますます高齢化が進む中、今後の対策を検討しているのか伺います。

答 総合政策部長　現在、平日は9台、土日祝日は3台により、午前7時から午後6時まで運行しています。

一日の予約件数は1台あたり平均11件であるところ、予約可能件数は20件を想定しているため、ある程度の余裕は確保できていると考えます。